

新約聖書の中の奥義 第 19 回

□ 第五部「サタンの 2 つの奥義 と それを打ち破る神の 8 番目の奥義」アウトライン

- A) サタンの奥義の第一 バビロンの奥義 黙 17 : 1~18
- B) サタンの奥義の第二 不法と不法の人の奥義 II テサ 2 : 1~12
- C) 神の 8 番目の奥義 サタンの奥義を打ち破ること
- D) 総括 : 終わった

□ 不法と不法の人の奥義とは

不法とは、サタンが持っている不法のプログラムである。これはすでに働き出しているが、まだ完全に動いてはいない。

それは、不法のプログラムが完全に作動することを引き止めているものがあるからである。将来、その引き止めているものが取り除かれる時が来る。

その時、不法の人、すなわち反キリストが現れる。

不法のプログラムとはどういうものか、それを今、引き止めているものとは何か？

□ 本日の内容

サタンの奥義の第二 不法と不法の人の奥義 II テサ 2 : 1~12

1. 1~2 節 さて、兄弟たち。私たちの主イエス・キリストの来臨と、私たちが主のみもとに集められることに関しては、あなたがたにお願いします。霊によってであれ、ことばによってであれ、私たちから出たかのような手紙によってであれ、主の日がすでに来たかのように言われるのを聞いても、すぐに落ち着きを失ったり、心を騒がせたりしないでください。
 - (1) 「私たちの主イエス・キリストの来臨と、私たちが主のみもとに集められること」・・・メシアの再臨と教会の携挙を指す。
 - (2) 「霊によってであれ」・・・霊とは、天使を指す。「天使のお告げを受けた」というような主張を指す。
 - (3) 「主の日」・・・旧約聖書で預言されてきた大患難期。イスラエルは民族存亡の危機に直面する。メシアが現れて、戦いを終わらせ、諸国民の王座を覆し、メシアの王国が建設される。
 - (4) 「主の日がすでに来た」・・・【教会の信者たちがまだ地上にいる間に大患難期が起きる】という偽の教えに基づく主張。パウロは、先の手紙により、テサロニケの教会に対して、【教会の信者たちは主の日が来る前に携挙される】と教えていた（I テサ 4 : 13~5 : 5）。使徒パウロの教えとは違う主張が起きたということ。

2. 3～4 節 どんな手段によっても、だれにもだまされてはいけません。まず背教が起こり、不法の者、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないのです。不法の者は、すべて神と呼ばれるもの、礼拝されるものに対抗して自分を高く上げ、ついには自分こそ神であると宣言して、神の宮に座ることになります。

(1) 主の日＝大患難期が起きるための 2 つの条件

- ① まず背教が起きる⇒**まず教会の携挙が起きる**・・・「背教」と訳されている[ギリシア]のアポスタシアの原意は、「出発」「離れること」。正しい教えから離れるなら「背教」となるが、この箇所ではそのような文脈ではない。教会が地上から出発すること、それは教会の携挙である。
- ② **不法の者、すなわち滅びの子が現れる**・・・不法の者とは、**反キリスト**である。

(2) 反キリストが現れるときの状況は、旧約聖書のダニエル書に預言されている。ダニエル書 7：8、20、24～25、9：27 を要約すると、次のとおり。

- ① 世界は十の地域に区分され、それぞれに一人の王、合計 10 人の王たちによる統治体制となっている。
- ② 反キリストはその 10 人の中には入らない、小国の王であるが、国際政治の舞台に登場して頭角を現し、イスラエルと同盟関係を結ぶ。反キリストとイスラエルとの条約締結、それが大患難期の始まりである。
- ③ この条約は 7 年間の有効期間をもって締結されるが、反キリストは 3 年半で条約を破棄し、イスラエルを占領する。そのとき、反キリストは、それまでの同盟者としての仮面を捨て、「不法の者、滅びの子」としての正体を現す。彼は「自分こそ神であると宣言して、神の宮＝エルサレムの神殿に座ることになる」。
- ④ それ以降、反キリストが滅びるまでの 3 年半の間、エルサレム神殿での祭儀は停止される。

(3) 反キリストがイスラエルとの同盟者を演じるのは、大患難期の前半の 3 年半である。

- ① この時期においては、バビロンには世界統一宗教の本部が置かれて、宗教面で世界の人々を支配する。世界を政治的に支配するのは 10 人の王たち、彼らは世界統一宗教を支持する。
- ② 反キリストは、10 人の王たちによる世界支配に挑戦し、彼らのうちの 3 人を倒し、残る 7 人を服従させる。さらにバビロンを攻撃して、世界統一宗教の礼拝施設を破壊し、宗教指導者たちを追放する。それが、「すべて神と呼ばれるもの、礼拝されるものに対抗して自分を高く上げ」ということである。
- ③ そして、イスラエルとの同盟関係を破棄して、エルサレムの神殿を占拠し、そこに座って、自分こそ神であると、世界に向けて宣言する。

(4) 以上のことは、旧約聖書のダニエル書から知ることのできる内容であるから、奥義ではない。

3. 5～6節 **私がまだあなたがたのところにいたとき、これらのことをよく話していたのを覚えていませんか。不法の者が定められた時に現れるようにと、今はその者を引き止めているものがあることを、あなたがたは知っています。**
- (1) パウロは、テサロニケの教会の信者たちのところに滞在していたときに、彼らに教えたことを思い起こすように、と言う。
 - (2) その教えの内容を思い起こすなら、今はまだ誰も神殿を占拠して自らを神であると宣言することなどはできない、というのである。
4. 7節 **不法の秘密はすでに働いています。ただし、秘密であるのは、今引き止めている者が取り除かれる時までのことです。**
- (1) 「今引き止めている者」と訳されていて、引き止めているものは「者」、すなわち「ある人」となるが、原文では、そのような特定はない。直訳すると、次のとおりである。「**不法の奥義はすでに働いています。ただし今は、引き止めているものがあります。それが取り除かれる時が来ます。**」
 - (2) 「不法の秘密」・・・「秘密」と訳されているが、「奥義」である。「不法の奥義」とは何か？
 - ① サタンは、不法と呼ばれる、ある「プログラム」を持っている。
 - ② 十字架の福音は、信じる者を神に対して従順にさせる。これに対して、サタンのプログラムは、人間を神の律法に対して逆らわせようとする。それゆえ、そのプログラムは「不法」と呼ばれる。
 - ③ この不法のプログラムによって、サタンは、地上の権力を反キリストに掌握させようとしている。
 - ④ 十字架の福音がメシアによる正義と平和の王国建設を目指しているのに対し、不法の奥義は、反キリストによる地上の支配を目指している。
 - (3) 反キリストが世界を支配することになる、これは旧約聖書ダニエル書の預言によって知られていた。このこと自体は、奥義ではない。奥義であるのは、反キリストが支配者となる道筋は、合法ではなく、不法である、ということ。
 - ① よって、ヒトラーのように合法的な選挙で支配者になるケースは、反キリストには当たらない。
 - ② 「今引き止めているもの」とは、合法的な法治国家体制である。このような体制が存続する限り、反キリストの登場は引き止められている。
 - ③ そのような法治国家体制が取り去られたとき、反キリストが「不法の者、滅びの子」として現れる。これが、旧約聖書では知られていなかった奥義の内容である。
5. 8～10節 **その時になると、不法の者が現れますが、主イエスは彼を御口の息をもって殺し、来臨の輝きをもって滅ぼされます。不法の者は、サタンの働きによって到来し、あらゆる力、偽りのしるしと不思議、またあらゆる悪の欺きをもって、滅びる者たちに臨みます。彼らが滅びるのは、自分を救う真理を、愛をもって受け入れなかったからです。**

- (1) 大患難期の間で、不法の者、すなわち反キリストが世界の支配者となる。彼の統治期間は 3 年半である。3 年半の後、メシアの再臨が起きる。そのとき、反キリストは滅ぼされる。
 - (2) 不法の者の登場は、サタンの働きによって到来する。
 - ① 反キリストは、3 人の王との戦いで戦死し、その靈魂は「底知れぬ所」（よみの中にある場所の一つで、悪霊を一時的に閉じ込める場所）に下るが、サタンは反キリストをよみがえらせる。そして、よみがえった反キリストは、3 人の王たちを倒す。
 - ② さらに、よみがえりの出来事のあと、サタンは、反キリストに「あらゆる力、偽りのしるしと不思議、またあらゆる悪の欺き」を行わせて、人々に反キリストを拝ませるようにする。
 - (3) 滅びる者たちが、反キリストを拝んで、その滅びるべきことを現わすのは、彼らの不信仰のゆえである。彼らは、大患難期の前半の 3 年半において宣教された福音を聞きながら、それを受け入れなかったのである。
 - ① 144,000 人のユダヤ人宣教師たちによっての世界宣教（黙示録 7 章）
 - ② エルサレムにおける二人の証人たちによっての宣教（黙示録 11 章）
 - ③ 中空から天使の声によって地上の人々に向けての宣教（黙 14 : 6~7）
 - (4) 「愛をもって受け入れなかった」と訳されているが、人の側の愛ではない。罪人を救いたいと願う神の愛を受け入れなかったというのが、原文の意図である。宣教された真理は、信じるなら彼らを救ったはずのもの。その真理には神の愛が込められていたのである。直訳するなら、次のとおり・・・「**彼らが滅びるのは、(信じていれば) 彼を救ったはずの真理の愛を、彼らが受け取らなかったからです。**」
6. 11~12 節 **それで神は、惑わす力を送られ、彼らは偽りを信じるようになります。それは、真理を信じないで、不義を喜んでいたすべての者がさばかれるようになるためです。**
- (1) 「惑わす力を送られ」と訳されているが、原文は「間違いを働かせる」。「間違い」とは 7 節の「不法」である。サタンの不法のプログラムが完全に作動することはないように、今は引き止めているものがある。それは、合法的な法治国家体制である。それが取り除かれる時が来る、ということ。10 人の王たちのうちの 3 人が倒れ、7 人が反キリストに服従する時である。
 - (2) 「偽りを信じる」・・・反キリストを神であると信じる。サタンは、反キリストと偽預言者にしるしや奇跡を行わせて、人々が反キリストを拝むようにさせる。
 - (3) 彼らは、反キリストを信じ、その右の手または額に「6 6 6」の刻印を受ける（黙 13 : 16）。このことは、彼らが回帰不能点を越え、さばきを受ける者となったことを意味する（黙 14 : 9~11）。